

## 医学研究実施のお知らせ

2019年01月22日 改訂(第1.00版)

町田市民病院臨床研究等倫理審査委員会の承認及び病院長の許可を受け以下の研究を実施しますので、〈人を対象とする医学系研究に関する倫理指針〉に基づき研究の情報を公開します。研究の対象となる方または代理の方で、この研究計画について詳しくお知りになりたい方や、この研究に既存情報を利用する事をご了解いただけない方は、【お問い合わせ先】へご照会下さい。(ご了解いただけない場合は、研究対象から除外とさせていただきます。また、その場合でも患者さんに不利益が生じる事はありません。)

### 【研究名】

呼吸器外科手術に関するアプローチ方法と開胸術後疼痛症候群との関係に関する後ろ向き観察研究

### 【研究概要】

#### I. 情報の利用目的および利用方法

呼吸器外科領域手術後の合併症に開胸術後疼痛症候群 (Post Thoracotomy Pain Syndrome : PTPS) が挙げられます。開胸術の創部に沿って出現し、少なくとも2ヵ月以上継続あるいは繰り返す疼痛で、開閉胸に関する肋間神経への障害が主因とされます。活動性や生活の質を低下させる要因となり得ますが、予防や治療の方法は確立されていません。また開胸術に限らず、低侵襲とされる胸腔鏡下手術 (Video Assisted Thoracic Surgery : VATS) においても発症する事があります。

本研究では、既存の術関連情報を整理検討することにより呼吸器外科手術でのアプローチ方法の差異等における PTPS 発症頻度を検索し、より PTPS 発症が少なく低侵襲な手術アプローチ方法を検討する事を目的とします。

#### II. 研究に利用する情報

2015年4月から2018年12月までの間に当院外科において開胸または胸腔鏡下に呼吸器外科手術を受けた方を対象とし、年齢、性別、喫煙歴、術後診断、手術方法 (VATS/開胸、肋間神経温存方法、肋骨切除の有無、閉胸時肋間神経温存方法)、胸腔ドレーン留置期間、術後合併症、術後2ヵ月時点での鎮痛剤投与の有無に関する既存情報を収集します。

#### III. 研究に利用するものの範囲

研究代表者 平野 純 (町田市民病院 外科 呼吸器外科担当部長)

#### IV. 本研究の情報管理に関し責任を有する者の氏名

研究代表者 平野 純 (町田市民病院 外科 呼吸器外科担当部長)

**【お問い合わせ先】**

町田市民病院 042-722-2230（代表）

外科 平野 純